

児童図書室だより

🐱 よんでみませんか 児童図書室がえらんだ本 🐱

ものがたり
ちしきの本

No. 98(2017. 1)

ドアのノブさん 【小低】

大久保雨咲 作 ニシワキタダシ 絵
講談社 2016.8 (J913-オオ-1111254201)

ノブさんはアパートのドアの取っ手です。ノブさんのいる302号室の山下さん家族はひっこしのため荷物をすべて運びだすと、ノブさんをおいていってしまいました。ノブさんはさびしくて涙が出そうです。ある日、ノブさんのアパートに田中さんがひっこしてきました。この家族にはわんぱくな男の子がいて、ノブさんは静電気でパチリとしておどかしたりしましたが、男の子の元気がないと気になってしまおうのでした。もも色のボタンや小さな木片、赤青えんぴつや裏返しのかつ下、身近にある「小さなもの」を取り上げた短編童話集です。

まいごのまいごのアルフィーくん 【小中】

ジル・マーフィ 著 松川真弓 訳
評論社 2016.7 (J933-マフ-1111250839)

ディア・ハウンド犬のアルフィーは、体は大きいけれどまだまだ子犬で、猟犬なのに何も追いかけたことはありません。ある日、飼い主のチャーリーとママは、いとこの結婚式に出るために、アルフィーを一日預けました。しかし、アルフィーが預けた家から逃げ出したので大変！チャーリーたちは必死でアルフィーを探します。一方、アルフィーは森の中で迷子になっていたところを、キツネの夫婦に助けられました。ところが誤って密猟者たちに捕まってしまう…アルフィーは無事チャーリーの元に帰れるのでしょうか。

レイン 雨を抱きしめて 【小高】

アン・M・マーティン 作 西本かおる 訳
小峰書店 2016.10 (J933-マテ-1111287329)

ローズは小学校5年生で、好きなものは同音異義語とルールと素数。そして高機能自閉症と診断されているため、クラスでも介助員がついています。ローズはパパと2人暮らしですが、学校への送り迎えは気の合うおじさんがしてくれます。ある雨の日、パパが犬を拾ってきました。ローズはその犬にレインと名づけて、いつも一緒に過ごすようになります。しかし巨大ハリケーンが来た日に、レインは行方不明になってしまいました。運よく動物シェルターでレインは見つかりましたが、ローズはつらい決断をすることに…。

人体シアターへようこそ! からだのしくみがまるごとわかる 【小高】

マリス・ウィックス 作 仁木めぐみ 訳
化学同人 2016.8 (J491-ウイ-1111257339)

案内役の「ガイコツ」が体のすみずみまで説明してくれます。体を支え、動かす骨や筋肉、呼吸をするための肺、血液とそれを送り出す心臓、食べ物を栄養に変える胃や腸、体内の水分を調節して老廃物を外に出す腎臓やぼうこう、あたらしい命を生み出す生殖器官、体中に信号を送る脳や神経、その他ホルモンや免疫、五感などイラストを豊富に用いて楽しく紹介しています。巻末には用語集も載っています。

ハルとカナ 【小低～小中】

ひこ・田中 作 ヨシタケシンスケ 絵
講談社 2016.8 (J913-ヒコ-1111262320)

男の子のハルと女の子のカナは、同じ2年2組です。ふたりとも8年間も生きているので、たいていのことはわかっているつもりです。ハルは最近「大人はややこしい生き物だ」と思ったり、「仲よってどうということかな」と考えたりします。カナは数を数えることやお友達のユズやキララといえると楽しいと感じています。そんなふたりがちょっと話をしたり、目が合って笑顔を返したり、お互いにもっと知りたいな、話したいなと思うようになります。可愛くて微笑ましいお話です。

まんぷく寺でまっています 【小中】

高田由紀子 作 木村いこ 絵
ポプラ社 2016.9 (J913-タカ-1111265635)

物語の舞台は佐渡島にある小さなお寺、万福寺。その一人息子で小学4年生の裕輔は、お寺の手伝いをしながらも、お寺を継ぐのなんて嫌で、マンガ家になりたいと思っていました。2学期のはじめ、裕輔は美雪と隣の席になりました。美雪は一年前に父親を事故で亡くしてから、ほとんど話をしなくなり、かげで「雪女」と呼ばれていました。美雪も絵を描くことが好きで、裕輔と仲良くなりますが、ある日美雪に「お寺はこわい」と言われ裕輔はショックを受けます。それでも何とか美雪を元気づけようと、裕輔は美雪のお父さんの一周忌にある提案をするのでした。

ミスターオレンジ 【小高】

トゥルース・マティ 作 野坂悦子 訳 平澤朋子 絵
朔北社 2016.9 (J949-マテ-1111278150)

1943年のニューヨーク。八百屋の少年ライナスは兄のアブケが戦争に行くことになったので、品物の配達を任されることに。そこでオレンジを注文する一人の画家と親しくなりました。彼のことを「ミスターオレンジ」と呼び、彼の描く絵や話す言葉に魅了されていきました。ナチスが支配するヨーロッパから命がけて逃げてきたその画家は、戦争に勝つためには、想像力が必要だとライナスに語ります。戦争が終わりに近づくころ、ライナスは「ミスターオレンジ」が最後に残した絵と向き合うのでした。実在の画家をモデルにした作品です。

レシピにたくした料理人の夢

難病で火を使えない少年 【小高】

百瀬しのぶ 文 汐文社 2016.8 (J289-シノ-1111258971)

昇兵の夢は料理人になってたくさんの人を笑顔にすること。脊髄小脳変性症という難病にかかり、体の自由が利かなくなった母親の代わりに6歳のころから料理をしてきました。高校2年生の時、母親と同じ病名を告知されましたが、料理人になる夢をあきらめはしませんでした。しかし病気のせいで料理中に腕に大火傷を負って、火を使うことを止められてしまいます。一旦は心を閉ざしますが、同じ障害者である友人たちに助けられ、昇平はレンジでできるレシピ本の作成に取り掛かりました。「レシピ本は自分の生きた証し」という彼の言葉に強さを感じます。

愛知県図書館 児童図書室

